

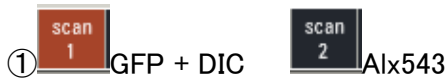
## 透過光(微分干渉 DIC)取得について

1. 透過光は蛍光像と同時もしくは順番にシーケンシャルで取り込むことができます。  
微分干渉(DIC)の場合注意点として、レーザーの波長は1波長でやる必要があります。  
微分干渉では透過光の偏波面が一方向にそろった光を使うため、二波長同時励起している場合は微分干渉 DIC 像はえられません。多重染色の場合は必ずシーケンシャルで使用してください。

例) 2 蛍光(GFP Alx543)と透過像(DIC)とり方のくみあわせ。

### 1)シーケンシャル1

この場合は、どちらかの蛍光画像取得のシーケンスに DIC をプラスします。



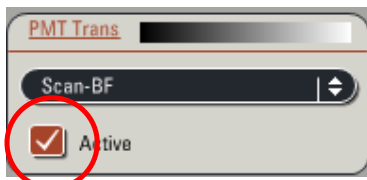
### 2)シーケンシャル2

この場合は、もう一つシーケンスを DIC でプラスします。この場合もレーザー波長が一波長にします。

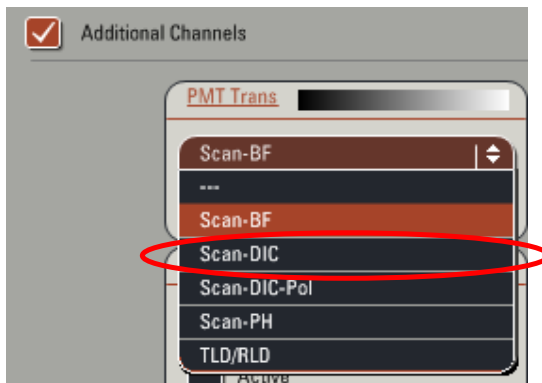


## 2. 透過ディテクターの選択方法

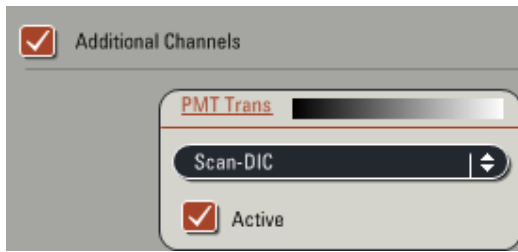
- ①PMT Trans を Active にします。



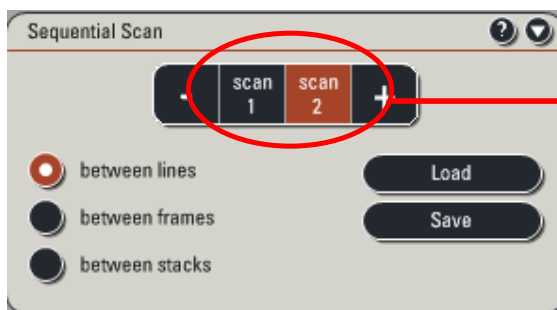
- ②Scan-BF をクリックし、プルダウンの中から Scan-DIC を選択します。



③下図の表示になります。

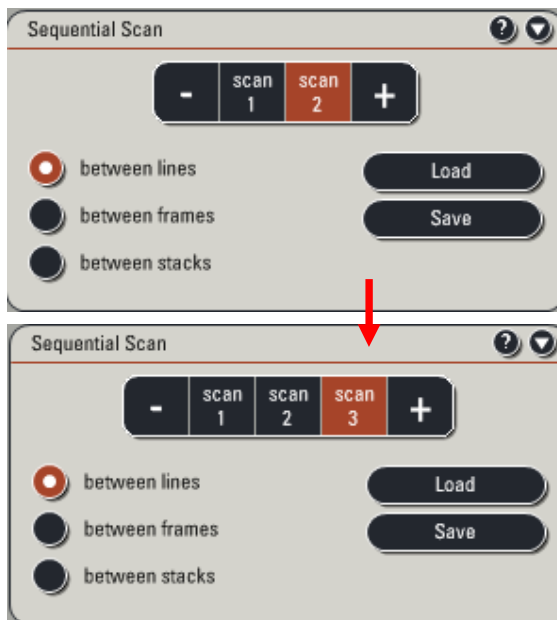


3. 1) どちらか一方の蛍光と一緒に微分干渉像をとる場合。  
一緒にとる蛍光のシーケンス scan1 か scan2 を選択して、2. の透過光の選択を行ってください。



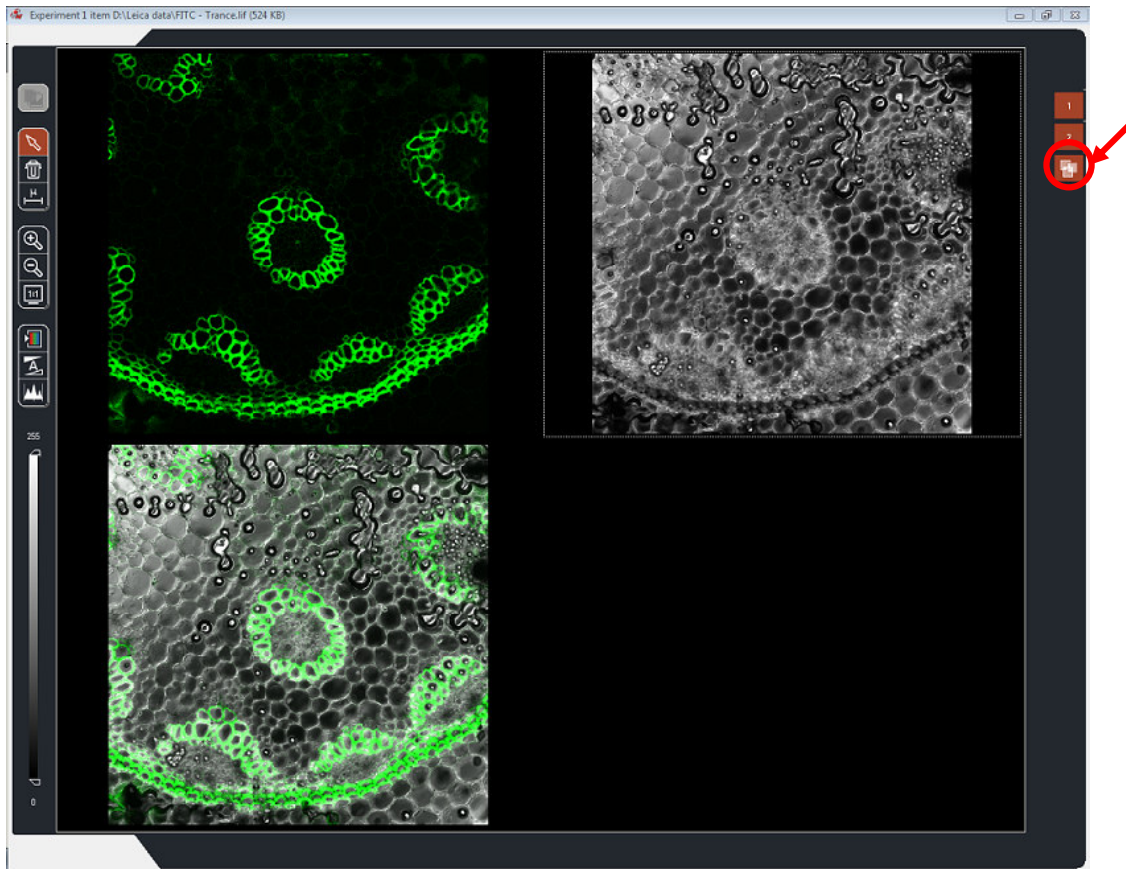
どちらかを選択してください

- 2) シーケンスをプラスして DIC をプラスする場合。  
+ を押して scan3 を追加します。



Scan3 を選択した状態で、2. の透過光の選択を行ってください。その後、レーザーの波長を選択してください。PMT の選択は外してください。

#### 4. 蛍光と透過の重ね合わせ。



イメージ側の赤〇をクリックしていただくと、上図のように蛍光透過が重なったものになります。